

2年連続でPTB最高評価獲得

ダイナム

ダイナム(東京都荒川区)は19日、パチンコ・トラスティ・ボード(PTB)による第8回評価調査を受け、評価分類10分類中9分類において最高評価格付け「AAA」、1分類で「AA」と評価された旨、発表した。これは前年同様に過去最高評価となる。

「AAA」とは、経営管理の仕組みが上場企業において模範となるレベルに達していることを指す。同社は、ガバナンス・基本姿勢・フレーム・財務プロセス・反社会・その他法令・風適法・労働法・内部監査の9分類が

これに該当した。なお評価調査は、2015年12月2～21日にかけて、同社本部ビルで各部門責任者・担当者へのヒアリング、ならびに規定・マニュアル・帳票類の確認が行われたほか、PTBにより選出された5店舗へのヒアリングと視察が実施された。

ダイナムはPTB設立当初から評価調査を受けており、経営姿勢の開示、コンプライアンス協議会の発足、内部監査規定見直しなど、社内体制の改善に継続して取り組んできた。

同社は今後も、継続してPT

Bの評価調査を受けるとともに、社内体制の整備・改善を推進。業界団体を通じてこれまで培ってきた経営管理の仕組みを積極的に開示することで業界全体の健全化、社会的地位の向上に取り組むとしている。

PTBは、パチンコホール経営企業の社会的地位向上を目指す、業界外の有識者・専門家による第三者で構成される組織。05年の設立以来、社会に信頼と安心を提供できるパチンコホール経営の確立を目的とし調査を行っている。

(ニュース提供・LOGOS×娯楽産業)

遊技産業の視点 Weekly View

岸本 正一



ホールマーケティングコンサルタント
LOGOSプロジェクト上級研究員

現在の遊技業界には、参加人口の減少を筆頭に、さまざまな課題が存在する。なかでも「射幸性のみに頼らない遊技の場」への転身は大きなテーマの一つだ。

射幸性の抑制などに起因する撤去・入れ替えによる遊技機のマイルド化の他にも、業界内の一部には高射幸性遊技機に過度に依存した近年の営業スタイルが客離れを招いたとの反省の声も聞かれ、今後のパチンコ市場は明らかに「大衆娯楽」に向けた回帰の道を歩み始めることになる。

しかしながら、実際に繁華街に出向いてみると、現在のパチンコ店がそのような方向にかじを切ろうとしているようには見えてこない。ホールのメイン通路(最も目立つ通路)には大量のマックスタイプ機が設置されており、そこに多くのプレーヤーが群がっている。ドル箱を派手に通路に積み上げ、その出玉感のアピール競争はいまだに続けられている。もちろん、これが全てのパチンコホールの姿を代弁しているわけではないのだが、「これまでのやり方」でなんとなく成立してしまっているという現状がうかがい知れる。

このような状況を見ると、「従来のやり方で行けるところまで行こう」という発想がホールの「現場」に深く根付いているのではないかと危惧してしまう。万一、業界が抱える問題を置き去りにした超短期的利益至上主義がホールの「現場」に存在しているとすれば大問題だ。例えば、クロマグロに関しては、これを食用として維持するために資源管理や養殖に取り組むし、地球温暖化対策として二酸化炭素排出量削減に取り組むというのが現代社会の先進国における最大公約数的価値観。当然のことながらパチンコも、パチンコという娯楽の将来的ビジョンを、折に触れて消費者や社会に示す必要がある。サステナブル社会にあって、企業の利己主義だけを掲げては生き残れないからだ。

重要なのは、ビジョンを実践する唯一の場である「現場」だ。業界のビジョンがここに、迅速に深く浸透することが、いま強く望まれる。

ビジョンを「現場」に浸透させよう



きしもと・しょういち 1963年生まれ。元SEの経験を生かし、遊技場の集客メカニズムを論理的に整理・研究する傍ら、全国のパチンコホールを対象にコンサルティングを行う。雑誌への連載やテキストの出版、セミナーでの講演なども手掛ける。オベーション代表。

幕張でアミューズメントエキスポ

ピックアップ

日本アミューズメントマシン協会(JAMMA、会長・里見治氏)と全日本アミューズメント施設営業者協会連合会(AOU、会長・飯澤幸雄氏)は19、20日の2日間にわたり、千葉市美浜区の幕張メッセ展示ホール4・5で「ジャパン アミューズメント エキスポ2016(JA EPO2016)」を開催した。

開会式では、「ニコニコ動画」を運営する「ドワンゴ」主催のゲームイベント「闘会議」と連携し、2017年から合同で開催することを明らかにした。

会場では、37社(国内36社・海外1社)の企業がブースを出展。発売前の最新ゲームマシンやクレーンゲームの景品、関連製品など約1000アイテムを展示し、実際に遊んで体感できる空間を提供した。

また、一般公開日となる20日は、音楽ゲームの全国大会「第2回天下一音ゲ祭 全国頂上決戦」が行われ、全国11ブロックで勝ち抜いてきた人気音楽ゲーム5機種の新鋭55人が集結。文字通りの頂上バトルを繰り広



「ジャパン アミューズメント エキスポ2016」の会場。2日間で約1万7000人が来場した

げ、会場を沸かせた。

ブースにおいて今回、特徴的だったのは「インバウンド需要」「消費増税」への対応展示。昨年に過去最多を記録した訪日外国人の利便性を高める外貨両替機や、来年4月に実施予定の消費税率アップを見据え、1コインにとらわれない価格設定が可能な電子マネーシステムなど、ゲームセンターを取り巻く環境の変化に対応した関連製品の展示が目立った。

これら設備関係では、遊技業界に周辺機器を提供するマースエンジニアリング(東京都新宿区)のグループ会社、マースウインテック(長野県坂城町)がブースを出展した。

同社は、世界初となるAir紙幣搬送システムを展示。空気の流れを利用して札を搬送するシ

ステムは、他社ではまねできないユニークな製品として関心を集めた。また、筐体製品「ハウスマネーチャージ機」では、内部ユニットの動作が見えるように展示する工夫で、来場者の知的好奇心をくすぐった。これらのほか、マルチカードディスプレイSTR-600、硬貨ホッパーのMH-100、500シリーズなどメダル・硬貨払い出し機、カード払い出し機、ICカードリーダーライター、紙幣識別機なども設置。同社ならではの「新たな発想」をアピールした。

同イベントは、期間中約1万7000人の来場者を記録。来年は「闘会議2017・JA EPO2017」合同開催として、2017年2月11、12日に幕張メッセ国際展示場1～8ホールで実施する予定だ。

業界団体だより

日遊協、女性活躍推進フォーラムを開催

日本遊技関連事業協会(日遊協、会長・庄司孝輝氏)は10日、東京都中央区の三洋グループビルで3度目となる「女性活躍推進フォーラム」を開催。当日は、加盟19社より女性正規社員19人が参加した。

この取り組みは協会の人事育成委員会が担当。「キャリアプランニング」「ワークライフバ

ランス」をテーマに、3回にわたり学びと交流の場を提供してきた。成果発表が行われる総括の回ということもあり、今回は参加者を派遣した企業から、役員や役職者も出席。それぞれの発表内容に耳を傾けた。

グループごとにプレゼンを終えた後、最優秀賞に輝いたのは、業界内の理解と周知を目的

としたポジティブアクション「キラめきPプロジェクト」。総評で谷口久徳副会長は、人材育成委員会が店長管理者養成、人材育成、新卒採用の合同セミナーという3つを課題に活動していることに触れ、同フォーラムの取り組み経緯について「業界改革を継続するため、女性活性化をテーマに掲げた」と説



明。今回の選考理由については、「斬新性・現実性・主張性の3点に注視した」と述べた。

グループごとに研究成果を発表。評価を仰いだ



写真にスマホをかざしてください

紙面連動アプリ「メディアトリガーplus」(無料)を起動、コンテンツ一覧から「かざすん」をタップ。マークのついた写真を取り込むと、関連した情報サイトが閲覧できます。iPhone、Androidいずれもご利用可能です(一部対応しない機種があります)。

- ※メディアトリガーplusの注意点
- ・本サービスはGPSデータを含むアクセス情報を取得しています。
- ・携帯電話回線を使っている通信費用はご利用者の負担になります。